

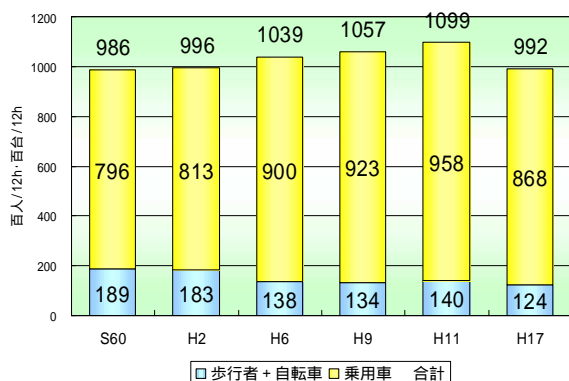
2 成果目標

(1) 都心部の歩行者・自転車分担率の向上

現状

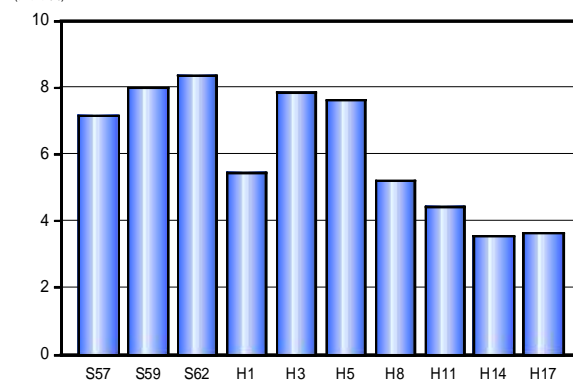
- ・自動車交通量は周辺の環状道路等の整備により近年減少傾向であるが、歩行者・自転車交通量も減少傾向にある。
- ・中央街区の歩行者交通量は、S62 年をピークに減少傾向に転じている。
- ・道路交通センサスの調査箇所（都心 5 箇所）における歩行者自転車分担率は、S60（中央街区の歩行者交通量がピークとなる S62 の近傍）と比べて 6.7 ポイントの減少（19.2%(S60) 12.5%(H17)）

道路交通センサス 12 時間交通量
(5 箇所計)



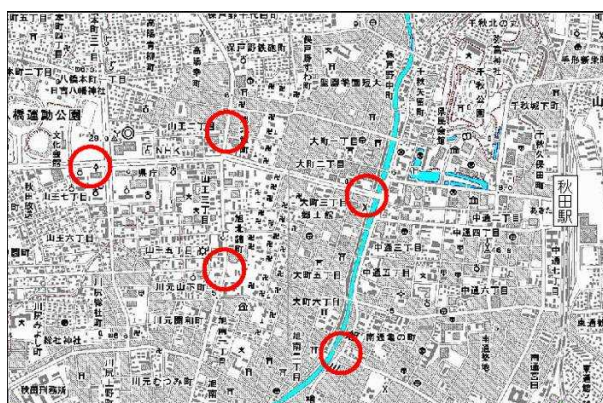
資料：道路交通センサス

中央街区(駅前)の歩行者・自転車交通量
(万人・台)



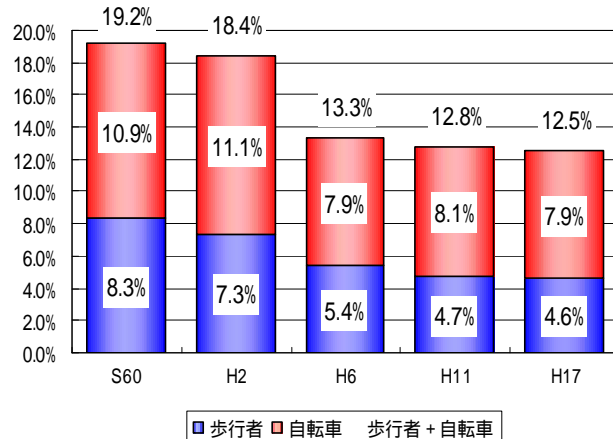
資料：市内主要商業地通行量調査結果

都心部を囲む道路交通センサス観測地点
(5 箇所)



資料：道路交通センサス

歩行者・自転車分担率
(都心 5 箇所計)



資料：道路交通センサス

目標値

- ・中央街区の歩行者交通量がピークとなる S6 2 年近傍の S 6 0 年の都心 5 箇所における歩行者自転車分担率（19.2%）を、長期目標値とする。
- ・短中期的には、段階的に過去の分担率を目安として設定する。

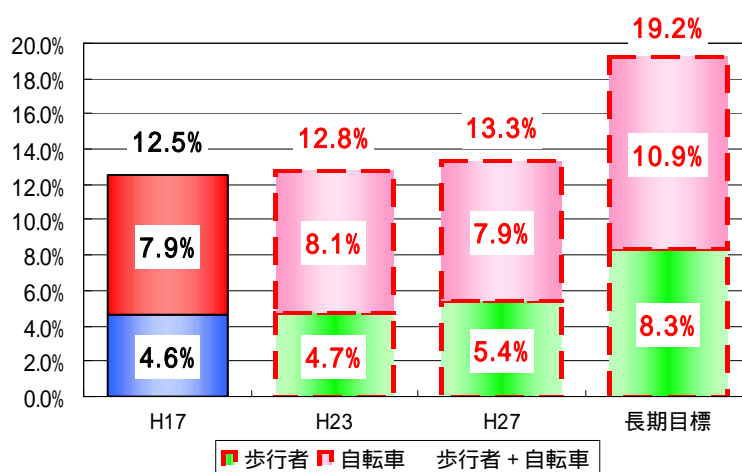
H23 年度目標 12.8%（H17 年の 6 年前の H11 年値）

H27 年度目標 13.3%（H17 年の 11 年前の H6 年値）

歩行者自転車分担率 = （歩行者 + 自転車）の 12 時間交通量

/（歩行者 + 自転車 + 乗用車）の 12 時間交通量

歩行者・自転車分担率の目標値
道路交通センサス 12 時間交通量（都心 5 箇所計）



資料：道路交通センサス

(2) 市内の年間歩行者・自転車交通事故死傷者数の削減

現状

- ・車両対歩行者の事故における死傷者数は概ね横ばいのままである。
- ・車両対自転車の事故における死傷者数は、近年減少傾向にあるものの、平成3年から平成15年までの急増により、高い数値をキープしている。

目標値

第8次秋田市交通安全計画(平成18年度～平成22年度)目標値

秋田市内交通事故死傷者数 1,800 人以下

H17 年の死傷者数 2,307 人と比較し、21.4%減となることから

秋田市内交通事故死傷者数(車両対歩行者)

目標(H22年) 130 人以下(H17年の死傷者数 166 人の21.4%減)

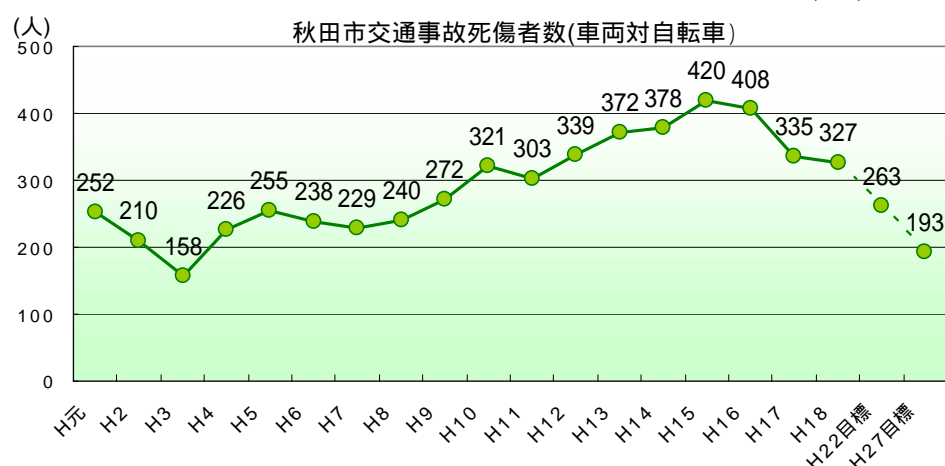
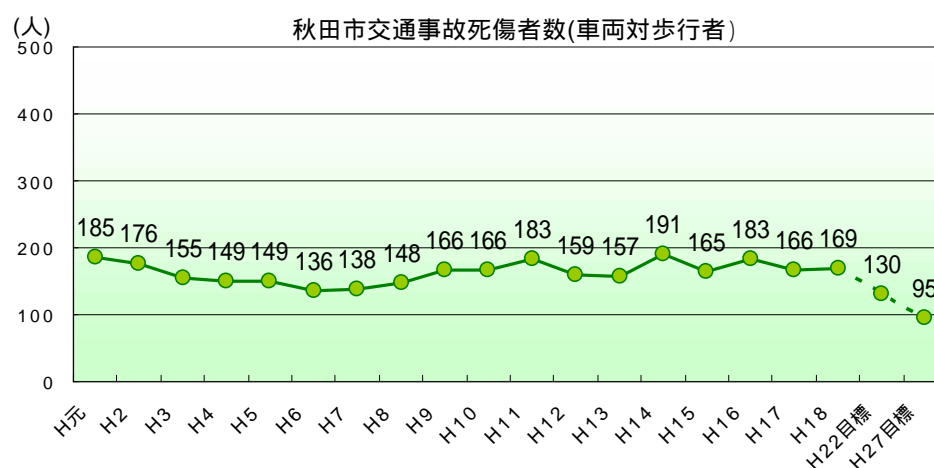
目標(H27年) 95 人以下(H22年目標値をスライドして試算)

秋田市内交通事故死傷者数(車両対自転車)

目標(H22年) 263 人以下(H17年の死傷者数 335 人の21.4%減)

目標(H27年) 193 人以下(H22年目標値をスライドして試算)

H27年度の目標は、第9次秋田市交通安全計画を受けて見直すこととする。



資料: 交通統計(秋田県警察本部)

平成22年度以降は第8次秋田市交通安全計画目標値から試算

(3) 中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加(秋田市中心市街地活性化基本計画)

現況

平成 19 年 31,157 人(休日)

目標値

平成 24 年 42,000 人(休日)

歩行者・自転車通行量測定箇所(11 地点)



出典：秋田市中心市街地活性化基本計画